

2024年11月度のボーイスカウト福岡第14団の報告について

1 ボーイ隊

○ 日時：11月23日（土）～24日（日）60km オーバーナイトハイク

唐津城からスタート、七山を通り北山湖を通り三瀬トンネルを通過して石窯の光明寺ゴールするコースに挑戦しました。唐津城を19時にスタートして、深夜の24時過ぎ七山で夜食を摂り、ゴールは翌日10時45分にゴールしました。最後まで、果敢に挑戦してくれました。

夜食を頂いた七山で澄み切った夜空を見て、満点の星を観る事が出来て感動をしていました。



2 カブ隊

○ 日時：11月17日（日）

場所：脇山野営場

内容：追跡ハイクと秋を感じる野外工作

目的：体の動きを高め、創造力を伸ばす

今年は猛暑で秋がいつもより遅かったのも幸いし、11月に落ち葉を使った野外工作をすることができました。午前中は追跡ハイクです。ボーイスカウトでは山々や野を歩くとき後者の為に危険や意思を伝えるために自然のモノを使ってサインを残します。今回はそれを脇山野営場周辺の町で行いました。

スカウト達は事前に学んだ追跡サインと、白地図と方位磁石を持ってスタートします。追跡サインを見つけて目的地に早く着いた組の勝ちです。迷わずに行けるでしょうか？



午後から北九州で「あーとの時間」を主宰、0～90歳に五感で感じるアートコミュニケーションを教える臨床美術士の播磨先生をお呼びして初めての野外工作をしました。

脇山野営場の枯葉や草をとって、それをシールがついた銅箔で貼り付けます。うえから葉脈が浮き出るように竹ペンなど使い圧をかけ、仕上げていきます。

スカウトたちはお気に入りの葉っぱや実を使って楽しそうに作っていました。1時間で二つ

の作品を仕上げるという見たことのない集中力でした。皆で鑑賞会を行い自分の好きなところを發表します。

2時間という中で一度も否定するワードを使わずスカウトのやる気を引きだす指導は見習うことの多き時間で、スカウトたちの作品に対しての自信に満ちた笑顔が素敵でした。



3 ビーバー隊

○ 日時:11月17日(日) 飛行機ごっこ・紙飛行機遊び於可也コミュニティセンター

秋は気候も良く旅行に適した季節です。今回は「ハッピーフライト」と題して飛行機ごっこ・紙飛行機あそびをしました。まずスカウトは隊長から渡されたチケットをもとに第一・第二ターミナルに分かれます。1人も乗り遅れることなく全員無事に搭乗すると定刻どおりにドアクローズ、約1時間半のフライトにテイクオフ。機長からの話(アナウンス)を聞きながら、この集会のためのオリジナル「機内誌」の特集ページを見ながら紙飛行機作りに挑戦しました。

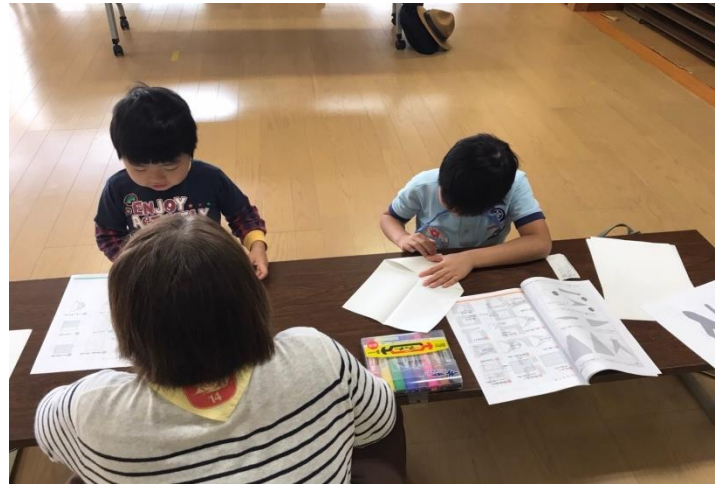
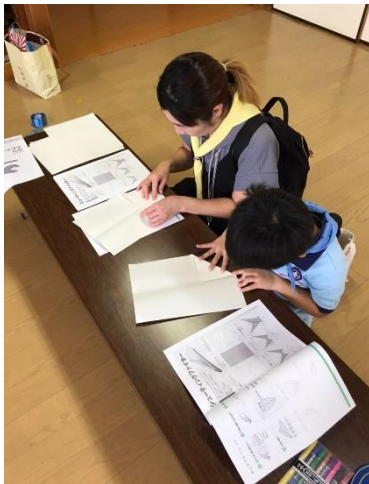
試行錯誤しながら紙飛行機を完成させたスカウト達は、実際に飛ばして遊びます。紙飛行機の飛行距離に応じて獲得したマイルは景品と交換してスカウト達はとても嬉しそうでした。

この日は「気流が安定せず最後まで「ベルトサイン」が消えなかった」という想定で、スカウト達にはフライト中にドリンクサービスとして提供される予定だった「コンソメスープ」を持ち帰ってもらいました。

集会の締めくくりには、オリジナル機内誌の「機内ミュージック」のページに掲載の「365日の紙飛行機」の歌にちなみ、隊長から「その距離を競うよりどう飛んだかどこを飛んだのかそれが一番大切なんだ」という話をしました。

今回の飛行機ごっこ・紙飛行機あそびをとおして、スカウト達の想像力がかき立てられました。

今後実際に飛行機に乗る際に、今日の集会を思い出してもらえたら嬉しいと思います。

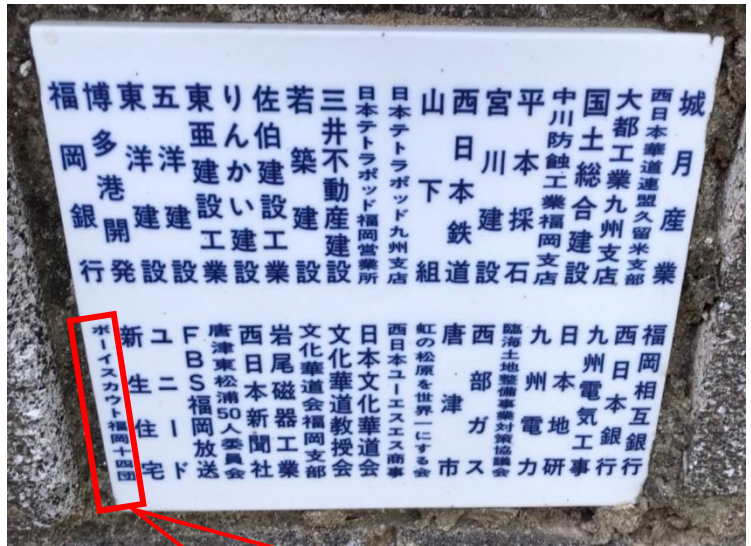


○ 日時:11月24日(日) 10kmハイイク於 姪浜駅～福岡タワー

当団ビーバー隊の目玉行事である10kmハイイクに今年も挑戦しました。今年は福岡市のランドマークである福岡タワーを目指し「全員完歩」を目標に歩きました。

道中、隊長特製のフィールドビンゴやクイズにも挑戦しながら、皆最後まで元気に歩き続け、全員無事完歩しました。フィールドビンゴでは、細部までよく見ないと間違ってしまう難問も見事クリアし、小学1・2年生のビーバースカウト達にもスカウト技能の「観察と推理」がしっかり身につけていることに驚き、そして感心しました。

10km といういつもより長い距離を歩き切ったスカウト達は、達成感と自信に満ち溢れたとても良い顔をしていました。忍耐力と克己心を身につけまた一回り成長したスカウト達の今後の一層の成長を指導者として願ってやみません。



ももち海浜整備事業において、ボランティア活動を実施した事で当団の明記あり

